

## 米国規則の改正

### (英語以外の言語でなされた仮出願についての翻訳文の提出等についての改正)

2005年11月25日に、英語以外の言語で出願された仮出願 (provisional application) についての翻訳文の提出等についての改正規則が施行されました。

従来から、英語以外の言語でされた仮出願を基礎として優先権を主張して、本出願 (non-provisional application) した場合は、仮出願の英文翻訳文を提出する必要がありましたが、翻訳文の提出は仮出願及び本出願のいずれの手続きにおいても行うことができました。しかし、一つの仮出願を基礎として複数の本出願をする場合等は、本出願の手続きにおいて英文翻訳文を提出すると、同一の翻訳文を重複してUSPTOが保管しなければならない等の不都合が生じていました。そこで、改正後は、翻訳文の提出は仮出願の手続きにおいてのみ行うこととしています。仮出願の翻訳文が提出されていない場合は、出願人には、所定の期間内に、英文翻訳文及び該翻訳文が正確であることについての宣誓書 (statement) を提出するように、通知 (notice) がなされます。かかる通知を受けた出願人は、仮出願の手続きとして、翻訳文及び宣誓書を提出するとともに、本出願の手続きにおいては、前記翻訳文及び宣誓書が提出されたことについての確認書 (confirmation) を提出しなければなりません。なお、仮出願の翻訳文の提出は、仮出願の放棄 (abandon) 後も、仮出願の手続きとして行うことができます。

以上の改正点の詳細につきましては

“Official Gazette Notices - 25 October 2005 - 12.Provisional Application ”

(<http://www.uspto.gov/web/offices/com/sol/og/og200543.htm>) をご参照下さい。

以上